

漢字語彙の自立学習を促す教室活動の工夫

—中級1 (B1) における実践—

前島知子

ウクライナ日本センター

基本情報

実施機関名	ウクライナ日本センター
実施コース名	中級1 レベル: B1
実施期間	2016年10月4日～2017年6月27日
授業時間	90分@1コマ、2回×32週=64回
授業担当講師	前期: 前島知子 後期: 前島知子、ペトロフスカ・ナタリア
1クラスの学習者数	20人
学習者の属性	大学生、社会人
使用教材	『まるごと』中級1B1 (試用版)

要旨

本実践は初級を終え中級に進んだウクライナ人学生が漢字語彙の自立的な学習習慣を身につけることを目標としている。

漢字語彙の習得を大きな壁と感じ、そのために日本語学習へのモチベーションを失ってしまうウクライナ人学生は少なくない。本実践ではまず漢字語彙の学習に関する教師と学生へのアンケート調査から現状と問題点を探り、次に「漢字のことば」「漢字のことば地図」「今日の漢字」の3つの活動を通して徐々に学生が自ら漢字語彙学習に取り組めるようになるよう試みた。

実践後の学生へのアンケートからは学生が本実践により漢字語彙の自立学習へのきっかけをつかんだことがうかがえるが、今後も自立的に学習し続けていけるのかは観察を続ける必要があり、教師側からのサポートも不可欠だろう。また、活動によってかかる学生への負荷の加減や中級1以外のレベルでこのような活動を行う場合どのように内容を調整するかなどの課題が今後に残っている。

1. 実践の背景

ウクライナ日本センター（以下、UAJC）では現在、初級クラスで3年間、中級クラスで4年間勉強できるようになっている。毎年300人以上が日本語を学習しており、大学生、社会人対象の夜間講座であるため趣味として学習している人が多い。初級クラスでは『まるごと』を使い、1年目で『入門』から『初級1』第9課まで、2年目で『初級1』第10課から『初級2』第12課まで、3年目で『初級2』第13課から『初中級』までを学習している。

UAJCには漢字語彙学習に特化したクラスはない。授業中の漢字語彙の扱いについては、初級クラスでは『まるごと』に提出された漢字語彙を宿題として練習プリントを課しているが、小テストは行っていない。中級クラスでは各自で主教材に沿って漢字語彙を勉強し、授業で小テストを行っていた。教師側は小テストを行う以外は学生個人の取り組みに任せ、学習を促すような取り組みは特にしていなかった。つまり漢字語彙学習はUAJC側が学生を牽引して行うものではなく、個人で学習するものという認識であった。しかし、漢字語彙学習を学生に委ねた結果、中級になっても初級レベルの漢字が読めず自立的に漢字語彙学習を進めることができない学習者が少なくなく、そのことが中級レベル以降の日本語学習の継続を難しくしているという現状を招いてしまった。

非漢字圏のウクライナ人にとって漢字語彙は習得に時間のかかるものであるが、多くの学生が興味を持っている。漢字語彙を「怖い」と形容することはあっても「嫌い」という学生は稀である。それにもかかわらず漢字語彙の習得は進まず日本語学習の大きな壁となっている。どのようにしたらより効率よく、実りのある漢字語彙学習ができるのだろうか。このような問題意識から、今回の実践の対象を「中級レベル」として実践計画を立てることにした。

2. 予備調査とテーマの明確化

実践の方向性を決めるに当たり、漢字語彙学習について『まるごと 初中級』クラス（35人）と『まるごと 中級1』クラス（19人）を対象に、「どのように漢字語彙を勉強したらいいと思うか」「今までどうやって漢字語彙を勉強してきたか」の2点についてアンケートを行った。学生に自由に書いてもらった意見の中には「何度も書いて覚える」「漢字カードを作る」などオーソドックスな回答が多かったが、「授業中の漢字テストは役に立たない」「先生にもらった漢字プリントを暗記する。役に立たないけど」といった意見もいくつか見られた。

同時に、教師へもアンケートを実施したところ（回答数10）、「学生の漢字語彙のレベルが学習年数に照らし合わせて妥当か」との質問に対し、低い4、妥当6、高い0、「学生の漢字語彙のレ

ベル（読み・書きなどを総合的に見て）満足しているか」に対しては、不満6、普通4、満足0の結果となり、漢字語彙力について教師が学生にマイナス寄りの評価をしていることがわかった。さらに、「質問①『まるごと』で勉強している学生にどのような漢字語彙学習方法が望ましいと考えるか」「質問②『まるごと』を使用しているクラスでの漢字語彙教育」の2点についても教師に意見や提案を請う記述式のアンケートを行った。回答の一部は以下の通り；

質問①

- 習った漢字や知っている漢字に関連する漢字語彙を集め広げていく。
- 生活の中で気になった/知りたい漢字語彙を勉強する。
- 読んだものの中で気になった漢字語彙をリストアップし、広げていく。
- 興味のある分野の漢字語彙を増やせるようにしたらいい。

質問②

- 「覚えてきて」と漢字語彙リストを渡すだけではなく、勉強の仕方を教える。
- 自主学習ができるように学習の仕方やアイデアを提示する。
- 『まるごと』の教科書のカリキュラムによると、漢字の勉強をしなくてもいいので自己学習しなければならない。だが、自分で学習しようと思っている学生は少ない。

このような回答から、教師は、学生に自主的に学習しよう意識させるためには、教師側で環境を整えたり学習の方法には様々な可能性があることを学生に気づかせたりする必要あると考えており、同時に学生それぞれが自分の興味に合わせて漢字語彙を増やしていくことを期待していることがわかった。

レベルが上がるにつれて『まるごと』の内容もより具体的になり、トピックのテーマに興味がない場合は積極的に授業に参加するのが難しくなる傾向がある。しかし、興味がない、面白くないといって背を向けるのではなく興味のないことにも自分から歩み寄っていくことが必要である。また、提示される漢字語彙量が初級に比べて格段に増える中級では学習者が漢字を自立的に学習できるかどうかその後の学習に大きく影響する。この実践クラスの大半は働きながら日本語学習を続けている成人学生であり、できるだけ強制せず無理なく学生の意識を漢字語彙の自立的学習へと導きたいと考え、①授業時に必ず漢字に触れる時間を設ける、②学生一人一人の興味に合わせて勉強できるように配慮する、③学生の個人の活動をクラスで共有する、④強制されなくても学生が自主的に

漢字語彙に取り組みようと思えるような環境を整える、という4点を具体的な実践の活動内容を決めるための標とした。

3. 方法

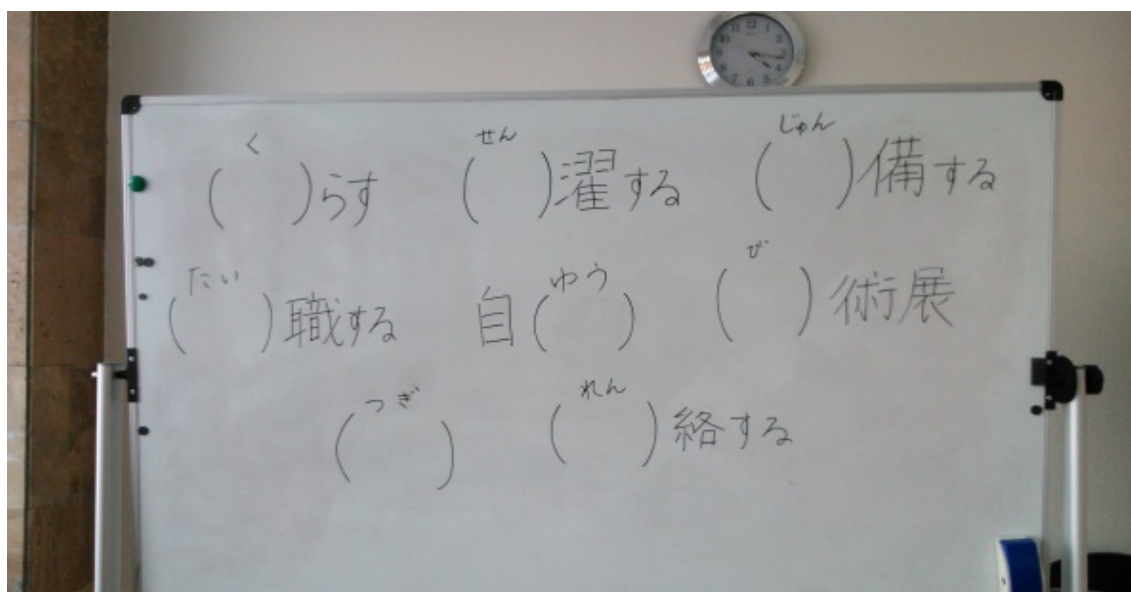
実践クラスでは『まるごと中級1 B1』を使用し、1トピックを6回に分けて授業を行う。毎回の授業で漢字に割ける時間は10分程度である。学生が『まるごと』を出発点としてそこから自立的に漢字語彙を増やしていけるようになることを目指し、この10分間でできる活動として次の3つの活動を行うことにした。

3.1 「漢字のことば」

『まるごと中級1 B1』では1トピックにつき10前後の漢字語彙が part4 で「漢字のことば」として提出されている。これは決して多くはない。しかし漢字語彙学習についてサポートをしていなかった昨年の中級1クラスではその読み方すら習得できていない学生が多かった。今回の実践クラスでは、主教材である『まるごと』で扱われている「漢字のことば」を漢字語彙の自立学習を促すための活動の軸とし、その他の活動に繋がるものにしようと考えた。

1トピック6回の授業のうち、最初の授業で読みと意味を確認する。2回目の授業でも読み方を復習するが、それ以降は徐々に書き方に比重を置いていき6回目の授業では「漢字のことば」に出てくる全ての漢字語が漢字で書けることを目指した。授業のはじめの3,4分ほどで教師の主導のもと漢字語彙の読み方または書き方をクラス全体で確認する。読み方の回では「漢字のことば」を書いた漢字カードをホワイトボードに貼っておき教師が指したものを学生に読ませる。書き方の回では虫食い状態にして空欄を作った「漢字のことば」をホワイトボードに書いておき学生に書かせる。読み書き、いずれの場合も時間のロスを減らすためと、教室に来た学生が始業前に自主的に復習をしようと思える環境を作るため、ホワイトボードは授業前に準備し教室の前に出しておいた（具体例は、資料1参照のこと）。

資料 1 : 「漢字のことば」授業前準備

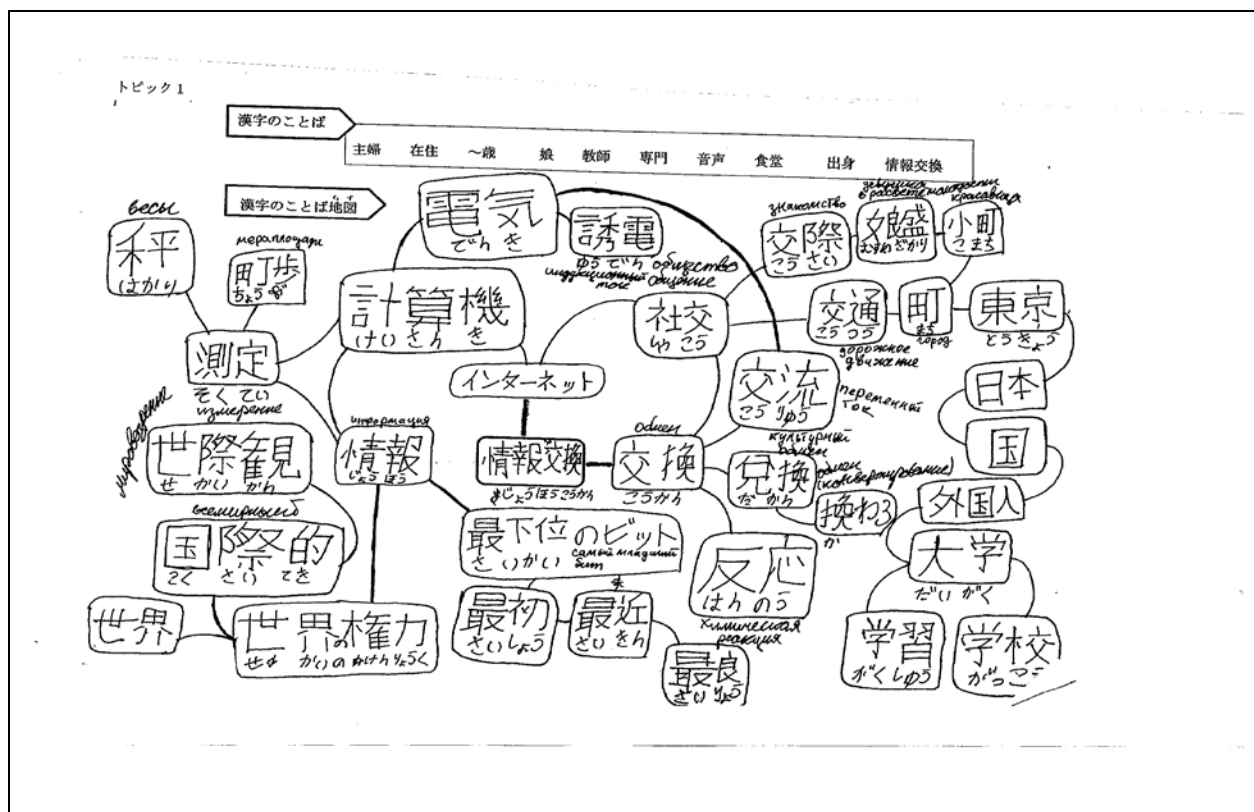


3.2 「漢字のことば地図」

2つ目の活動には学習者自らが自分に必要な漢字語彙を選択しながら増やしていく実践として「漢字のことば地図」作成活動を選んだ。「漢字のことば地図」とは、1回目の授業で導入した「漢字のことば」から好きな漢字語彙を1語選んでその言葉をスタート地点とし、そこから連想される言葉を自由につなげ広げて言葉の地図を作成していくものである（具体例は、資料2を参照のこと）。作成は宿題とし、作成時には辞書を引くことも学生同士で話し合うことも可とした。

この活動の意図は、概念や母語ではわかるが日本語では言えない言葉や表現を自ら学ぶことである。クラスで共有する「漢字のこぼば」からスタートして学生がそれぞれ自分に興味のある漢字語彙を調べていく活動は、学生の自立した漢字語彙学習への強い動機付けとなるのではないかと考えた。

資料2：「漢字のこぼば地図」





3.3 「今日の漢字」


さらに学生が自分で作成した「漢字のこぼば地図」の中から1語選び、なぜその漢字語彙を選んだのかなどその漢字について自由に書きクラスで発表するという活動を「今日の漢字」と名づけ3つ目の活動とした。漢字についての記述はメモ程度でもいいので日本語で書くこととしたが、発表については、発表する側も発表を聞く側もストレスなく意見が述べられるようにウクライナ語で行うようにした。この活動では、「漢字のこぼば地図」を作成する際に調べた漢字語彙を再度見直す機会を作ると共に、自分の選んだ語について深く考える時間を設けることで学生が単純に暗記して漢字語彙を覚えるのではなくイメージをともなった形で記憶に残す学習方法があることに気づききっかけとなることを意図した（具体例は、資料3を参照のこと）。

資料3：「今日の漢字」

今日の漢字







今日の漢字は「緑」です。彼と一緒に料理の名前を覚える話です。最近彼は新しい仕事で働きはじめました。和食レストランです。でも、料理の名前が難しかったです。「しょうがない」と言って手伝いました。最初「緑サラダ」を覚えてみました。緑というロシア語で「зеленый」で、きゅうりとか、ねぎとか色々な緑材料がある。でも、まったく彼は覚えられませんでした。つっと思いつきました → みどりは「nonveg-pa」とちょっと似ています。たいへんでしたのに、彼はやっと覚えられました。

3.4 実際の授業

1 トピック 6 回の授業でどのように漢字を取り入れたかをトピック 1 を例にして以下に示す。

回	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字のことば」導入 意味と書き順（書き順は2つか3つにとどめる） ・2分程度時間を与え読み方を覚えさせる。その後、漢字フラッシュカードで教師がQを出し学生に読ませる
2	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に前回導入した漢字のカードをボードに貼っておく ・授業始めにざっと復習 ・教科書の「漢字のことば」にある質問について考える。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に「漢字のことば」の漢字語を未完成の状態で板書しておく ・授業始めに漢字語を学生に完成させる ・テーマに沿って漢字語を一つ選び「漢字のことば地図」作成（宿題）
4	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に「漢字のことば」の漢字語の読みを板書しておく ・授業始めに漢字語を完成させる（学生に書かせる） ・「漢字のことば地図」を3,4人のグループで共有（地図は回収）
5	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に「漢字のことば」の漢字語の読みだけを板書しておく（前回書いていない学生に書かせる） ・授業始めに板書してある読みに対応した漢字語を書かせる ・地図返却 ・「今日の漢字」作成（宿題）
6	<ul style="list-style-type: none"> ・（職業）を表す漢字語を一人ひとつ板書、共有（トピック1の「漢字のことば」にある質問に全員で取り組む） ・「今日の漢字」をグループで共有

この活動は授業の始めに行い、「漢字のことば地図」や「今日の漢字」をグループで共有する回は多少時間をかけるが、そのほかの回では5～10分程度で終えるようにした。

4. 結果

4.1 前期終了時点で見えた成果

UAIC長期クラスは前後期の2学期制を取っており、各学期の終わりには全学生対象のイベントが開催される。1月末に行われる前期終了イベントでは漢字コンテストが恒例となっている。この漢字コンテストではクラスごとに教室の前に出て出題された漢字の読みを書き、間違えた人は席に戻るといものである。それを繰り返し最後まで残った人が勝者となってチョコレートがもらえる。出題される漢字は教科書に沿った既習のものに限っているが、毎年どのクラスも早い段階で脱落者が出て早々に勝者が決まってしまう。そんな中で今年の中級1クラスだけはなかなか脱落者が出ず、白熱した戦いを繰り広げた。これは毎回5分でも授業で「漢字のことば」に触れてきたことの成果だと考えられる。

4.2 コースを終えて ―学生へのアンケート結果―

実践クラス的全コースが終了した時点で今回の取り組みについて学生にアンケートをとった。

(有効回答数13) (アンケートフォームは、資料4を参照のこと)

4.2.1 「漢字のことば」

「『復習は学習の母』(ロシアの諺)」という学生のコメントに象徴されるように、毎回わずかな時間でも繰り返し漢字語彙に触れることについて「今まで全く身につけなかった漢字が今年ようやく覚えられた」「(毎回授業のはじめにみんなで勉強することで)とてもよく覚えられた」「みんなで切磋琢磨して勉強がおもしろくなった」「少ない数の漢字を長い期間勉強したことで今までとは漢字学習に対する考え方が変わった」などの積極的な意見がほとんどで、13人のうち12人がこの活動は漢字の勉強に役に立ったと回答した。

4.2.2 「漢字のことば地図」

「最初から最後まで積極的に取り組んだ」にチェックを入れた学生（4人）は「一つの漢字だけでなく一度にたくさんの漢字に触れられる」「この活動をして漢字が覚えやすくなった。想像力を養うこともできる」「（大学の）試験が始まって時間が足りなかったが、自分で漢字を探してマップを作るのは楽しかった」とコメントし、「初めは消極的だったが、途中から積極的に参加し始めた」にチェックを入れた学生（4人）からは「書くのにはたくさん時間がかかるので本当に難しかった。けれど、何回も書いて色々な言葉を見つけたりしているうちに気に入った」などとコメントしていた。「初めは積極的だったが途中から消極的になった」をチェックした学生（5人）の中には「面白くない」とまったく興味が持てなかった学生もいたが、その他4人は「時間がかかりすぎた」「日本語の勉強以外のことが忙しすぎた」「自分の意志の問題」「集中力が維持できずだんだんできなくなった」とコメントしていた。

4.2.3 「今日の漢字」

「最初から最後まで積極的に取り組んだ」（4人）、「初めは消極的だったが途中から積極的に参加し始めた」（0人）、「初めは積極的だったが途中から消極的になった」（5人）、「始めから終わりまで興味が持てず消極的だった」（4人）と、積極的に取り組めなかった学生が大半を占めた。積極的意見か消極的意見かにかかわらず、コメントには「様々なテーマの作文が書けるようになった」「時間がたくさんかかるが、作文を書くのはとても役に立つ」「最初は興味があったが作文を書くのは苦手」「作文を書くのはいつも難しい（言語を問わず）」「作文を書くのは好きじゃない。でもこの活動は効果的」といったような、「今日の漢字」を漢字語彙の学習というより作文の宿題と捕らえているような意見が多く見られた。さらに、「2つ3つの文を書くのに1~1.5時間もかかった」「漢字の面白いことについて書くのは簡単なことではないから「今日の漢字」の代わりに「漢字マップを2枚作っていた」などの意見もあった。

4.2.4 成果物の共有

「漢字のことば地図」と「今日の漢字」をクラスで共有したことについては「友達と話し合っ
て経験をシェアできてとても面白かった」「友達のをみてすでに知っている漢字をいろんな意味で見直すことができた」「同じ漢字からスタートしても他の学生と全然違うものができて面白かつ

た」「それぞれ違うやり方があるから、皆楽しそうに参加していた」などの意見がありほとんどがプラス評価だった。

5. 考察

5.1 「漢字のことば」「漢字のことば地図」「今日の漢字」を実践した効果と問題点について

5.1.1 「漢字のことば」

毎回の授業の中でこの活動に割いた時間は3～5分程度であったが、1トピック6回の授業の比較的早い段階ではほぼ全ての学生が漢字が読めるようになった。一方、漢字を書くことは半数以上の学生が『まるごと』で提出されている10個程度の漢字のことばを6回の授業では覚えきることができなかった。とはいえ、アンケートにあった「提出された漢字全てが覚えられなくても一部は覚えられた」というコメントからは「漢字は難しい。覚えるのは無理」と漢字語彙の学習を0か100かで考えていた学生が、少しずつ一步一步積み上げていけばよいのだと気づいた様子が伺え、意味のある活動だったと考えられる。

5.1.2 「漢字のことば地図」

既習未習にかかわらず学生が自分の興味のある漢字語彙を自分で調べていくこの活動の目的は、学生の自立した漢字語彙学習を促すことであった。

アンケートには「この活動をきっかけに自分でたくさん勉強するようになった」「勉強することが面白くなった」「漢字がたくさんある文章が読みたくなった」「この活動のおかげで自分でもっと勉強するようになった」「漢字マップは面白いけど、今日の漢字で一つの漢字を選ぶのは大変だった。夏休みにも勉強を続けたいと思う」「去年と比べて漢字を復習する時間が増えた」などのコメントがあり、この活動が自立学習の第一歩になった学生が少なからずいたことがわかる。また、「最初は活動の意味がよくわからなかったので積極的ではなかった」「今までなかった活動だから少し慣れるのに時間が必要だった。慣れたら一番好きなタスクになった」などのコメントからは「漢字のことば地図」についての理解が浅いま活動が始まってしまい戸惑っていたが、活動を続ける中で意義を見出していったことがわかる。この活動について、アンケートで「始めは積極的だったが途中から消極的になった」という学生が「時間がかかりすぎる」「自分の意志の問題」「集中力が維持できずできなくなった」ことを理由として挙げていた。

なぜ「時間がかかりすぎる」「自分の意志が弱い」から活動に消極的になったと考えたのだろうか。この活動では「漢字のことば」の中から一つ選びその言葉から地図を作っていくこと以外特に形式の指定はしていなかったため、学生が作成した地図は様々で、何色もの色を使ったカラフルな地図や言葉にちなんだイラストが描かれた地図を作成する学生もいれば、非常に簡単に書かれたものや鉛筆で殴り書きのように書かれた地図を作成する学生もいた。多くの学生は忙しい時や気力が足りない時には無理せず彼らのできる範囲で地図を作成していたようで、時間があるときに2枚3枚とまとめて作成、提出する学生もいた。そういった中で一部の学生が「始めは積極的だったが途中から消極的になった」のは、成果物の共有が遠因になっているのではないだろうか。アンケートの回答には出てこなかったが、学生と世間話をしている中で「友だちの地図はとてもきれいでうらやましい」「自分は絵が下手だからおもしろい地図がかけなくて残念だ」という声を聞いた。この活動に消極的になった学生は「漢字のことば地図」をクラスで共有する ことに刺激を受け、クラスメイトのような手の込んだ地図が作りたいという思う一方、それを作成するための時間が満足に取れないというジレンマの中で徐々にやる気を失い、積極的に参加できなくなっていった可能性も考えられる。

このような学生のモチベーションをどう維持していくか、そして成果物の共有時にはカラフルなものイラスト付きのものに注目が集まりがちなので共有の仕方に改善の余地はないのかという点について今後さらに考えていきたい。

5.1.3 「今日の漢字」

「今日の漢字」は漢字語彙を一つ選びその 語について日本語で自由にコメントや説明をつける活動だが、日本語でコメントをつける作業はかなり負担だったようだ。

アンケート結果からわかったことだが、多くの学生が「今日の漢字」の活動を作文と捉えていた。日本語で作文を書かなくてはならない活動だと捉えた学生に「今日の漢字」の活動が大きな負担になったことは想像に難くない。そのためかこの活動は「漢字のことば地図」に比べて提出率が低く、アンケートを見ても学生からの評価が低い。これはコースの始めのガイダンスで、簡単な日本語で書けばよくメモ程度でも可であり作文が目的ではない、という点の説明が不十分であったのかもしれない。学生が始めから活動の趣旨を理解していなかったのか、コース始めのガイダンス時には活動の趣旨ややり方を正しく理解していたが活動を続けていくうちに認識が変わっていったのかはわ

からないが、どちらにしてもコースの途中で何度か活動の趣旨をクラス内で再確認するべきだった。また、初級クラスで同様の活動をする場合には母語の使用も可とするなど柔軟に考える必要があるだろう。

「今日の漢字」はただ暗記して漢字を覚えるのではなく、学生が自分で選んだ漢字の言葉についていろいろ考えてみることでそれぞれの思い出やイメージと関連させて記憶に残せるようになることを意図した活動だったが、多くの学生に漢字について作文を書く活動だと認識されてしまったことから、残念ながら目指した成果はあげられなかったようだ。

5.1.4 活動全体を通して

今回の試みは「漢字のことば」「漢字のことば地図」「今日の漢字」を連動させて行った。しかし、「漢字のことば地図」と「今日の漢字」については、学生からのアンケート結果にもあったように活動そのものは「楽しい」「面白い」と感じるものの、1トピック6回の授業の中でその両方を作成することは学生にはかなり負担だったようだ。学生が漢字語彙に触れる時間を少しでも増やす目的でパターンが違う2つの活動を取り入れてみたが「漢字のことば地図」か「今日の漢字」のどちらかに絞り、学生が余裕を持って取り組めるようにすべきだった。

成果物の共有については「とても面白かった。友達と話し合って経験をシェアした。」「時間が少なかったけど好きだった。自分の作品を自慢に思っていたし。」などのコメントから、成果物を共有することで周囲から刺激を受けるのと同時に自分の書いたものも友達に見せたいという欲求が生まれ、それが「漢字のことば地図」や「今日の漢字」を作る強い動機付けとなったのではないだろうか。漢字語彙の自立学習を促すためにはなにがしかの強い動機付けは不可欠であるが、それを見つけるのは簡単ではない。本実践で成果物を共有したことは、学生がもっと漢字を勉強したいと思うようになるきっかけになったと考えられる。

アンケート結果から学生がこれらの活動について概ねプラス評価をしていることがわかったが、一方で一連の活動について「意味がない」「無駄だ」「辞書を丸写ししているだけ」「基礎ができていないとこういうふうに勉強しても意味がない」などとして活動の意義を否定する意見があった。しかし、これらの厳しい意見は一人の学生がアンケートの一つ一つの項目に対して書いたものであるため、学生全体の意見とは言いがたい。

どうしてこの学生はこの活動を受け入れられなかったのだろうか。恐らくその学生はなぜその活動をするのかという根本的な部分を理解していなかったのではないだろうか。ウクライナ人は文型積み上げの講義型授業に慣れているため、「漢字のことば地図」や「今日の漢字」のような活動のみならず『まるごと』に対しても懐疑的な態度を取る学生がいるのも事実である。そのような学生が「漢字のことば地図」や「今日の漢字」を系統的な学習方法ではないとして否定することは十分考えられる。何もしないで「意味がない」と否定する学生に、教師はまずはやってみてもらえるように根気強く声をかけ説明し続けることが肝要だろう。

5.2 自立学習達成について

「漢字のことば地図」と「今日の漢字」については、コース後半になるにつれ提出されてくる量が減ってきた印象だったが、コース途中で辞めてしまった学生やほとんど来なくなった学生が5,6名いたことを考えると提出率が大きく下がったとはいえない。また、安定して規則的に提出する学生だけでなく定期的に提出できなくても時間に余裕があるときに何枚かまとめて作成して提出する学生、自分に興味のある漢字語があるときだけ提出する学生も見られた。継続的に安定して提出していた学生は平素から宿題などの提出状況もよく教室活動にも熱心に参加していた学生で、もともとある程度自立学習ができていたと考えられる。一方、自分の興味がある漢字語があるときだけ提出していた学生は宿題の提出状況がよくない上に『まるごと』のペアワークなどの教室活動にも消極的であったため、今回の活動開始前には彼らの参加はあまり期待していなかった。しかし、少なくとも自分の興味がある漢字語があるときには活動に参加したということは、彼らにとってこの活動が自分の興味に支えられた自立学習への一助となったと考えてよいのではないだろうか。

5.3 学習環境について

本実践における教師の役割として、学生の自発的な漢字語彙学習を促すために、学生が勉強しやすい環境を提供することを挙げていた。しかしコース途中で教師の研修や体調不良で休講することがあり「漢字のことば地図」や「今日の漢字」について学生のモチベーションを上げるような声掛けが続けられなかった期間があった。この間、シートの添削と返却も滞ったため学生の意欲に水をさしたことを強く反省している。学生が学習しやすい環境を整え、声をかけて継続的に刺激を与え

ることは教師の重要な役割の一つであり、教師が8ヶ月の間安定してクラスを牽引していくことは当たり前ではあるが常に心に留めて努めていかなければならないと痛感している。

5.4 その他

今回「漢字のことは地図」や「今日の漢字」は教師が添削をし、コメントを付けて学生に返却した。今後UAJC全体でこのような取り組みをする場合、初級から初中級のクラスが対象となるが、初級クラスでは学生数が20人以上になる。コマ数で契約している非常勤講師に授業以外の業務をお願いできない中で、添削などのフォローをオフィスワークに従事しているUAJCスタッフで全てカバーできるのかという大きな問題があり、この点も今後話し合っていかなければならない。

6. まとめ

漢字語彙の自立学習を促す試みとして3つの活動を8ヶ月にわたって行った。こういった活動による成果は数値化することが難しく、さらに短期的なスパンでは成果の可否を断ずることができない。しかし、アンケートに対する「この活動をきっかけにして自分でたくさん勉強するようになった」「勉強することが面白くなった」「漢字がたくさんある文章が読みたくなった」「この活動のおかげで自分でもっと勉強するようになった」「漢字マップは面白いけど、今日の漢字で一つの漢字を選ぶのは大変だった。夏休みにも勉強を続けたいと思う」「去年と比べて漢字を復習する時間が増えた」などのコメントからは、今回の活動が漢字語彙の自立学習への第一歩になったのではないかという手応えを感じている。

今後も今回の実践クラスの学生が漢字語彙の自立的学習を続けているのかどうかを観察していくと共に、本実践の経験と反省を踏まえて学生に負荷を与えすぎない効率的な自立的漢字語彙学習について引き続き考えていきたい。

参考文献・サイト

三上明洋(2010) 『ワークシートを活用した実践アクション・リサーチ ー理想的な英語授業を目指してー』

徳弘康代 (2007) 「表出能力を伸ばす漢字語彙学習の実践」

<http://www.nkg.or.jp/pdf/jissenhokoku/tokuhiro.pdf>

江原美恵子・安田励子・井口翔子 編著 (2013) 「日本語初級クラスにおける学習者の漢字自立学習を促す活動実践」 http://www.nkg.or.jp/pdf/jissenhokoku/2013_P17_ebara.pdf

資料4：学生への振り返りアンケート

振り返りアンケート

中級1

今年度は漢字に関する活動をたくさんしました。これについて皆さんの意見を聞かせてください。

毎回授業の始めに「漢字のことば」の読み方や書き方をクラスで勉強しました。

①この活動は皆さんの漢字の勉強に役に立ちましたか。 はい いいえ

②この活動について意見や感想を自由に書いてください。

「漢字のことば地図」活動について当てはまるものをチェックしてください。その理由も書いてください。

- 最初から最後まで積極的に取り組んだ。
- 初めは消極的だったが、途中から積極的に参加し始めた。
- 初めは積極的だったが、途中から消極的になった。
- 初めから最後まで興味が持てず消極的だった。

理由：

「今日の漢字」の活動について当てはまるものをチェックしてください。その理由も書いてください。

- 最初から最後まで積極的に取り組んだ。
- 初めは消極的だったが、途中から積極的に参加し始めた。
- 初めは積極的だったが、途中から消極的になった。
- 初めから最後まで興味が持てず消極的だった。

理由：

「漢字のことば地図」や「今日の漢字」をクラスメイトと共有する時間がありましたが、これについてどう思いますか。

去年と比べて今、

①漢字の勉強の仕方は同じですか。 はい いいえ

「いいえ」と答えた人に聞きます。

- 1) 何がどんなふうになりましたか。
- 2) 勉強の仕方が変わったきっかけはなんだったと思いますか。

②漢字に対する興味や意識は変わりましたか。 はい いいえ

「はい」と答えた人に聞きます。

- 1) 何がどんなふうになりましたか。
- 2) 興味や意識が変わったきっかけはなんだったと思いますか。

今年度の漢字学習について意見や感想があれば自由に書いてください。